三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2023-24 クラブテーマ　気づき、ひらめき、ひろげよう

2024. 5. 20　「外部卓話」　No.2486　No.34

会長挨拶

三条南ロータリークラブ
会　長
熊倉　高志

昨日は分水 RC 設立 50 周年記念式典に参加してきました。会員の皆さん一丸となり、素晴らしい内容の式典と懇親会でした。また、本日の卓話は松崎会員のご紹介で新潟経営大学 地域連携課長、佐藤卓之様にお越しいただいています。よろしくお願いいたします。

今日の挨拶は枯山水のはなしをしたいと思います。平安後期の作庭記に文献上最初に枯山水のことばが出てきます。寝殿造りの時代の庭づくりの秘伝書で、当時の関白藤原頼通の子、橘俊綱（たちばなのとしつな）がその作庭経験からしるしたものと言われています。頼通といえば平等院鳳凰堂ですね。平泉の毛越寺（もうつうじ）は奥州藤原三代の基衡建立とされていますが、その父初代清衡は俊綱の兄弟と親しい間柄だったそうです。このことより毛通寺庭園もその手法によるところが大きいです。枯山水としてまとまったもので最も古く手法的に優れたものは京都の西芳寺（苔寺）庭園です。これは禅僧の夢窓国師（むそうこくし）によるもので室町時代にこれら作庭技術が発達した理由に、専門職として山水河原者（さんずいかわらもの）が台頭してきたことがいわれています。竜安寺石庭はその代表作です。

東山文化の立役者足利義政はその山水河原者の善阿弥を大切にしていたそうです。水墨画の影響や禅宗の教えがそれら作庭技法に大きな影響を与え、平安期寝殿造の池泉回遊の庭に比べ、土木技術に頼ることなく手軽に作庭できたこともこの時期に枯山水が広まっていった要因ともいえると思います。

このことからも枯山水は禅宗寺院に多く見られ、京都では大徳寺、妙心寺といった大きなお寺のたくさんの塔頭に見られます。ちなみに東福寺方丈の作庭は昭和のもので重森美鈴（しげもりみれい）“市松の庭”が有名です。

幹事報告　田中康之副幹事

◆本日の出席：40 名中 23 名

◆本年度通算出席率：84.46%

◆本日のお客様：

新潟経営大学 理事地域連携課長 佐藤卓之様

◆先週までのメークアップ：▷5/16 三条 RC へ西潟精一さん▷5/17 三条東 RC へ平松修之さん▷5/18 地区ロータリー財団委員会へ木村譲さん▷5/19 分水ＲＣ創立 50 周年記念式典へ（燕三条ワシントンホテル）熊倉高志会長、田中康之副幹事、松崎孝史さん、渡辺和宏さん、塩入栄助さん、関博市さん、峰嶋由紀子さん

ニコニコボックス

5/20　10,000 円　　本年度累計　549,000 円

熊倉会長「昨日は分水 RC50 周年記念式典に参加してきました。会員一丸となった素晴らしい会でした。本日は佐藤様、卓話よろしくお願い申し上げます」

田中副幹事「新潟経営大学佐藤卓之様、本日はどうぞよろしくお願いいたします」

松崎さん「佐藤先生、本日はお忙しいところありがとうございました。ご教示よろしくお願い致します」

銅冶さん「佐藤卓之様、本日の卓話ありがとうございます」

加藤さん、関さん「佐藤卓之さん、卓話を楽しみにしています」

廣岡さん「つゆが近いのでしょうか、心は晴れでいきたいです」

田代さん、渡辺(俊)さん「BOX に協力します」

太田さん「昨日は佐渡で 210ｋｍを自転車で走ってきました。天気は最高でしたが、体が痛いです。佐藤様の卓話楽しみにしております。BOX にご協力ありがとうございました」

世界に希望を生み出そう

国際ロータリー会長 ゴードンR.マッキナリー（スコットランド）
第２５６０地区ガバナー　米山　忠俊（三条北）
第4分区ガバナー補佐　小出　和子（三条東）
会　長　熊倉　高志
幹　事　吉沢　栄一
ＳＡＡ　田中　康之

事務局
〒955-8666 三条市旭町 2-5-10
三条信用金庫本店内
TEL0256-35-3477
FAX0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL https://www.sanjo-minami.jp

外部卓話

「新潟経営大学の地域連携について」

新潟経営大学
理事・地域連携課長

佐藤　卓之　様

冒頭、自己紹介から県会議員時代の思い出として、県央基幹病院と須頃地区の開発、新潟小須戸三条線の拡幅や災害対応・新通川拡幅などについて振り返った。

本題に入って、まず、新潟経営大学が地域連携に取組む背景として、少子化、人口減少時代における地方の小規模私立大学の立ち位置について解説した。全国には８００を超える大学があるが、少子化の中ですでに定員未充足の大学がマジョリティであること。また、中央教育審議会が平成３０年に出した「グランドデザイン答申」によれば、地方における人材の育成は、教育界だけの課題ではなく、産業界を含めた地方そのものの発展とも密接に関連する課題であるとされていることや、大学は地域の人材を育成し、地域の行政や産業を支える基盤（インフラ）であるとされていること。そこから、情報共有（開示）と連携を通じて「地域に必要とされる大学」しか生き残れないと考えて、地域連携に取組んでいると話した。

具体的な地域連携については、県央地域の５市町村との包括連携協定などの地域との連携の枠組み、「経営学実地研究」という経営大学オリジナルの授業をはじめ、ゼミや通常授業の中で地域と連携した教育活動事例が多くあることや、社会人向けの無料の公開講座や子供向けのチャレンジ大学講座など、数多くの地域連携、地域貢献の取組みについて写真を交えて紹介した。